



# 東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 155 Oct. 1. 2018

発行 公益社団法人  
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



タシ ラン峰(6060m) 8月18日 午後2時8分 全員初登頂を果たす P2参照

## 目次

○第13次インドヒマラヤ登山報告	星 一男	2	○支部友コーナー	金谷正起	15
○東海支部登山学校			○同好会コーナー		16
第Ⅱ期活動報告	榊 将美	5	塩の道/ スケッチ	山中光子 村中征也	
○第6回夏山フェスタ開催を 振り返って	毛利邦男	7	○委員会報告		17
○東海岳人列伝(11) 東海俳壇	西山秀夫	8	自然保護/山行 東海Youth/ボランティア		
○リレーエッセイ⑧その4	安藤忠夫	11	○会務報告	毛利邦男	19
○東海支部の蔵書からの一冊⑩	園田さえ子	13	○ルーム日誌・会員異動	毛利邦男	20
			○INFORMATION		21
			○編集後記	星 一男	

# タシ ラン峰 (TASHI RANG PEAK : 6060m) 初登頂

## (公社) 日本山岳会東海支部第 13 次インドヒマラヤ登山隊 2018

### インドヒマラヤ登山隊隊長 星 一男

第 13 次インドヒマラヤ登山隊 2018 は、インドヒマラヤ・スピティー地区のカルチャ・ナラ流域にある 6060m 未踏峰に 8 月 18 日午後 2 時 8 分全員登頂を果たし、タシ・ラン峰 (幸せの山の意) と命名した。1988 年の第 1 次・ヤン峰以来 17 座目の登頂となる。

また、第 10 次アッチェ峰 (2009 年) 以来、ラホール - スピティー地区のカルチャ・ナラ流域にある A~D 氷河すべての源頭の未踏峰を登頂したことになる。

今回の遠征は、①遠征隊を継続して出すこと ②隊員の若返りを図ること ③10 次隊から継続してカルチャ・ナラ流域での探検的登山を行うこと、が主たる狙いである。

高橋玲司支部長、および鈴木常夫元評議員、海外遠征をされた先輩諸氏から多くの助言をいただき、万全の準備で出発出来たことに感謝申し上げたい。



6,060m 峰を AC より望む (須田克正隊員撮影)

#### 隊の構成

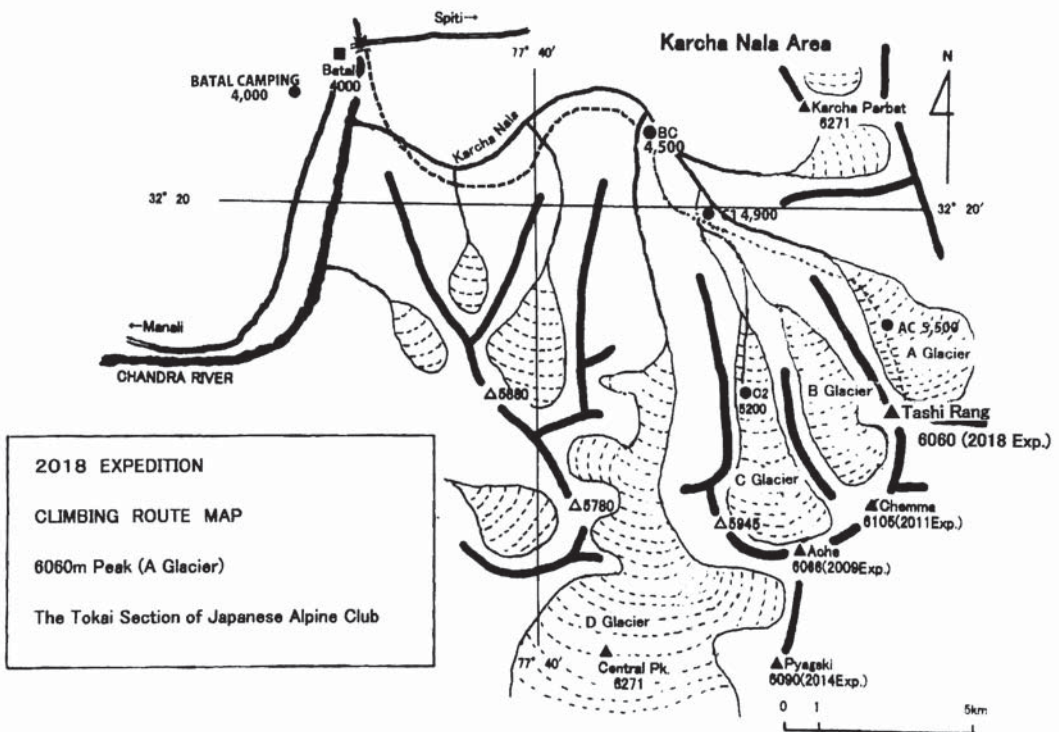
総隊長：高橋玲司支部長

隊長：星 一男(67)

登攀隊長：塚原孝司(64) 隊員：木股修一(67)

隊員：須田克正(63) 隊員：長谷川妙子(50)

#### カルチャ・ナラ 概念図



## 行動記録 須田克正 (記)

- 8/2 日本出発  
8/3 IMFにて登山手続き、リエゾンオフィサーと面会、在インド日本大使館へ挨拶  
8/4 塚原、須田両隊員がインド着し合流  
8/5 5:30 デリー出発 20:30 マナリ到着  
8/6 マナリ登山学校見学、Rajeev氏と打ち合わせ、燃料等購入  
8/7 装備点検、Rajeev 宅にて歓迎夕食会  
8/8 5:00 発 Lohtan Pass (4,000m) 雨の中、高所訓練、PM 寺院参拝※スタッフ1名交代  
8/9 7:30 Batal に向け出発 13:30 車立ち往生のため全員歩く。15:00 車両再スタート 16:10 Batal 到着 (4,000m) テント泊初日  
8/10 晴 5℃ 9:30 高所順応トレ 11:20 4,200m 地点 14:30 装備点検と梱包 気温 30℃  
8/11 テント撤収 馬 16 頭 8:00 出発 晴 10℃ 9:00 ワイヤークーブルにて最初の渡渉 13:10 二度目の渡渉 (徒歩) 14:25 MC 着  
8/12 曇り 8:00 出発、2 回の渡渉後 11:00 BC(4,500m)到着 途中 Chemma 峰 (6105 m) を確認  
8/13 インドスタッフが祭壇を設ける。全員で登山の成功を祈る。雨の為、テントにて過す。15:00 全員で登攀装備点検  
8/14 晴 (秋を思わせるような天候) 8:30 高度順応の為 C1(4,900m)に向け出発。11:00 C1 地点着後 BC に戻る 13:45 BC に帰還 日本食を食べる  
8/15 晴 (テント内 9℃) インド独立記念日 9:56 C1 に向け出発 渡渉 1 回 12:30 着 スタッフ・塚原・木股で AC 方面偵察  
8/16 曇り (テント内 4℃) 9:00 C1 出発し氷河歩行。途中、目指す頂上を遠望 11:30 AC(5,500m)到着、C1 に下ったスタッフと定時通信を行う 一時霰が降る  
8/17 曇りのち晴 外気温 7℃ 8:00 偵察出発 10:40 AC テントに再びスタッフと合流し、アタックルートの決定  
8/18 曇り (テント内 1℃) 外薄氷 無風 霧 5:38 アタック出発 10:40 雪稜超え 11:00 ランチ 14:08 頂上到着 (6,060m) 14:38 懸垂下降等で下山開始 18:40 日没 20:55 AC 帰着夕食もせず就寝 3 時降雪  
8/19 快晴 (外気温 0℃) 結氷一番の冷えこみ 頂上をバックに再度、写真を撮り合う 9:30 C1 に向け出発、11:00 C1 到着、テン

ト内を動物 (白きつね?) に荒らされる  
13:00 BC に向け出発、渡渉 1 回 14:30 着  
14:40 登頂祝いのピザを皆で食べる  
18:30 長谷川隊員鶏肉料理で全員もてなす

- 8/20 快晴 (秋晴) インドスタッフ断食日 皆、川で洗濯・行水など思い思いに過す 赤飯を祭壇に供え成功を感謝する 14:30 登頂の経過を 5 人で確認する

## 山名を「TASHI RANG」(幸せの山) に決定

- 8/21 晴 全員で祭壇に山名報告と感謝の祈り 8:00 MC に向け出発 渡渉 2 回 10:20 着 ※水の確保ができないため Batal まで下山 15:30 Batal 到着 夕食で Peyare 氏のラム酒にて乾杯 最後のテント泊  
8/22 晴 テント撤収 荷物積み込みの準備 9:07 マナリに向け出発 途中、土砂崩れで 50 分程待つ、13:07 茶屋にて休憩 雨が降り再び土砂崩れで 10 分待機 15:40 マナリ到着 Rajeev 氏が登頂成功のセレモニーで我々をもてなしてくれる 久しぶりの入浴、ベッドでの就寝  
8/23 10:00 インドスタッフとお礼の会食 18:00 Rajeev 一家がお祝い夕食会を開催  
8/24 雨 9:00 デリーに向け出発 (土砂崩れで 3 時間遅れる。) 2 台で出発 途中、事故の為、山中で 2 時間止められる。 23:00 高速 SA にて遅い夕食 5:00 ニューデリー到着  
8/25 11:00 IMF 訪問 登山報告および 30 分懇談。IMF のキャップを戴く。遠征中お世話になった IMF の係官の Gaje 氏と最後の別れ。玄関で記念撮影  
8/26 Manju さんの案内による市内観光 (博物館・インド門・国会・買い物等)  
8/27 日本領事館訪問、大型 SC (モール) にて買い物後空港到着、23:05 出国  
8/28 関西国際空港着 帰国・帰宅

## 「タシ・ラン」登頂 (アタック) 記録

塚原孝司 (記)

未踏峰「タシ・ラン」(6060m) は、スピティ地区カルチャ・ナラ A 氷河最上部に位置し、登頂ルートは A 氷河から雪稜を登り頂上に至る。

頂上への雪稜は、一見、なだらかに見えるが、雪壁・岩稜・クレバスと変化に富んだルートで、IV 級グレードに匹敵する。

隊員5名は、8月18日午前5時38分ガスの中ACを出発、FIXロープ14ピッチを駆使して、午後2時08分、全員登頂に成功した。30分後下山開始、登高時と同ルートで「安全第一」と考え、23ピッチのFIXロープを展開し、下部はコンテニューアスのままACに下山。

当日の天候は、前々日ひょうが降り心配したが、「霧のち曇り・時々晴れ」と落ち着いていた。晴れ間の雪稜からは、美しいヒマラヤ襲の雪壁を拝むことが出来た。

### 登頂記録

8月18日AC(5500m)を午前3時起床、外はガスに包まれていたが、アタック日と決めていたので、迷いなく朝食を済ませ登攀準備。

出発予定の午前5時、全く視界が効かない。少し明るくなるのを待つとガスの中に視界が開け、同5時38分AC出発。隊列になりA氷河を登高。アイゼンがよく効いた。前日、偵察試登済みの右正面からのダイレクトルートを提案したが、現地ハイポーターからクレバスが多く危険という理由で拒否され断念。事故を起こしては、元も子もない、「安全第一」である。大きく山裾を迂回し、午前6時45分取付き。

クレバスと滑落防止対策として、全員コンテニューアスを結ぶ。雪面は、軟雪であるが下の氷は硬く簡単にピッケルは刺さらない。「一人滑落したら全員が滑落停止の姿勢を取れ」とハイポーターは言うが、容易な事とは思えない。なにより、落ちないことだ。

午前7時37分下部雪壁上部岩稜に出たところで、最初の核心部、FIXロープを伸ばしシュマルで登攀。「上部岩稜からの落石に気を付けて」と後続隊員に叫ぶのがやっとなで、一人一人が抜けるまで待つ余裕がなかった。ここを抜けると、眺めの素晴らしい雪稜に出た。続けて、FIXロープを伸ばし、順調に雪稜を登攀した。ペトルのスクリュウが面白いように効いた。

午前10時40分先頭のハイポーターが突然、「左の雪庇を割りアップザイレンして左下の岩稜に出たい」と言う。なるほどと思える、畳幅くらいの岩稜が上に向かって伸びている。岩稜は、雪壁とのミックス帯で、上部ほど岩稜の幅が狭くなり雪壁のみになっている。

「雪稜をそのまま登攀したい」と主張したが、クレバスがあり危険と諭され「やはり安全第一」と考え、左へ20mアップザイレンした。アップザイレン後、ランチ。

午前10時59分、なだらかな岩稜をフリーで

100m進み、以後斜度のある岩稜と雪壁のミックス帯を、FIXロープを伸ばしながら登攀。



雪壁とのミックス帯を登る(木股修一隊員撮影)

午後1時03分頂上左手前の小ピークを廻り込み通過。更にミックス帯を登ること40分、ふと見上げた瞬間頂上が見え、主稜へつながる美しい雪面の最終FIXを登攀。そして、頂上まで100mの雪稜をフリーで1歩1歩登り、頂上に立つことができた。最終ピッチあたりから、若い頃からのヒマラヤへの憧れとかつての厳しい冬期登攀山行の数々が思い起こされ、なぜか涙が流れ出し、ついに頂上では大泣きになってしまい、皆で抱き合って喜んだ。

午後2時38分下山開始。登頂ルートと同ルートで下山。FIXロープをフル活用しての下降で、斜度のある箇所はアップザイレンとなり、必然的に所要の時間がかかった。核心部を下りきったところで、ヘッドランプが要るほどの暗さとなり、ヘッドランプを頼りに下部の雪稜を、FIXとコンテニューアスでACまで下る。午後8時55分AC到着。



隊員全員登頂を果たす(木股修一隊員撮影)

### 最後に

今回も、未踏峰を無事に全員登頂が達成できた。今まで諸先輩から頂いたノウハウの賜物と思う。今後も大切に受け継いで、発展させていきたい。有難うございました。

# 東海支部登山学校第Ⅱ期活動報告(第1四半期)

登山学校運営委員会委員長 榎 将美

《はじめに》

多くの目的と期待を担って発足した登山学校も大過なく一年が過ぎました。これは講師陣が繰り返し登山の基本的な知識、技術を指導したこと。また受講生の皆さんが「自立した登山者」になる目標を意識し続けられたことによるものだと考えています。

第Ⅱ期は『山』を通じて素晴らしく、そして豊かな生活を送るべく講師陣と受講生がさらに交流を深めていくことを念頭にしたカリキュラムを編成しました。

《活動状況》

## 1) 7月

①第Ⅰ期終了式と第Ⅱ期開校式：7月7日(土)実施しました。第Ⅰ期終了書授与者は初級教室37名、中級教室25名、上級教室4名の計66名です。(男女比50%ずつ)

第Ⅱ期開校式は四部に分かれ、第一部では高橋玲司登山学校校長より挨拶があり第Ⅰ期修了者に修了書の授与が行われました。第二部はクラス編成の発表とオリエンテーション。第三部では尾上昇委員よりスライドを使った「近代日本登山史」=文明開化とともに=と題する記念講演がありました。第四部の分科会では新しいクラス編成で第Ⅱ期の打合せを行い自己紹介と1年間の計画を話し合いました。第Ⅱ期受講生は、初級教室4クラス21名、中級教室5クラス30名、上級教室2クラス12名計11クラス63名です。

②卒業山行：各クラスで受講生企画による卒業山行が実施され、1年間の成果を遺憾なく発揮されました。クラスによってはO・B・OG会



初級教室 卒業山行「仙丈ヶ岳」

が結成されています。

③親睦山行：第Ⅱ期新クラスで親睦を深めるための山行を実施しました。



第Ⅱ期開校式 高橋校長挨拶



終了書授与



中級教室 定例山行「烏帽子ヶ岳」



中級教室親睦山行「お金明神」  
愛知川渡渉

第Ⅱ期は、同じ目標を持ち、メンバー個々の能力を最大限に発揮しつつ一丸となる「チームビルディング」を目指します。

## 2) 8月

①机上講習：8月11日(土)「山の日」に初級教室第1回目の座学を実施しました。テーマは

「登山の基礎知識」、服田康宏委員より受講生参加型の講義を行いました。講義内容は、「山と平地の違い」「食べ物と飲み物」「体力と疲労」「バテないために」「道具の知識」と多岐に亘り今後の山行に役立つことと思います。

②**現地講習**：各教室新クラスで現地講習(山行)を開始しました。



初級教室「鷹ノ巣山・岩岳」地図読み



中級教室「蓼科山」地図読み



上級教室「西穂高岳」岩場下降



上級教室 定例山行「西穂高岳」

### 3) 9月

①**朝明ミーティング**：9月29日(土)～9月30日(日)支部友委員会との合同企画で各教室(初級教室・中級教室・上級教室)を超え、各クラス間の親睦を深める機会を第Ⅱ期より新たに設けました。登山学校関係者全員が2日間に亘り一同に会する大きなイベントです。

29日(土)：午前10時開会式。午前10時30分、尾上 昇委員による「リーダーシップと遭難と題する講演。

昼食を挟んで午後1時より実技講習Ⅰ「ロープワークとセルフレスキュー」。指導は瀧根正幹氏(東海支部員、ガイド協会公認ガイド)。

午後3時より実技講習Ⅱ「(1)テントの設営方法」(テント、ツェルト、タープ)(2)地図読図の実技指導(コンパスとモバイル)等の研修を行いました。午後5時からはBBQを楽しみ受講生相互の懇親を図りました。午後10時就寝。

30日(日)：午前6時起床、6時45分から朝食後各教室・各クラス別に分散登山を実施。

初級教室：ハライド・ブナ清水、日本コバ等。

中級教室：釈迦ヶ岳、鎌ヶ岳等。

上級教室：御在所裏道/北谷小屋周辺でザイルワーク訓練と登攀指導。各教室とも充実した山行になりました。

《おわりに》

山の自然は初心者といえども、厳しい試練を与えてきます。ましてや中級・上級教室の山行ともなるとその厳しさは増してくるでしょう。山の遭難事故を防ぐためにも事前の準備、また山行時にも事故を避ける配慮を十分にしなければなりません。第2四半期も「山のトラブル対処法」等机上講習と現地講習を強化します。皆様のご協力を得て無事山行されることを願います。

## 第6回夏山フェスタ開催を振り返って

夏山フェスタ実行委員会事務局 毛利邦男

今年も6月23日(土)と24日(日)の2日間にわたり名古屋駅前にあるウインクあいちの7階と8階で夏山フェスタが盛大に開催された。

7階はセミナー会場と山小屋中心の展示会場とし、8階は主展示会場の配置となり、メーカー関係27社、旅行・観光自治関係の23・山小屋31に加えその他の出展も併せ出展小間数は97であった。小間数は昨年より若干少なくなはなったが、来場者数は初日に4,261名、2日目3,694名、合わせて7,955名となり昨年より400名上回る来場者となった。

今回も青年部・学生部・東海ユースの諸君がフェスタ運営業務の支援で頑張っていた。この場を借りて感謝の意を表したいと思う。



たくさんの聴衆

『故障の少ない歩き方』、『山の天気』と題した講演や富士山登山を2000回達成した実川氏の講演、ならびに『夏山登山とインターハイにかける思い』と題したトークショーなど、2日間で12コマのセミナー、トークショー、座談会が開催され、たくさんの聴衆でにぎわった。



東海支部ブース

東海支部のブースでは「山のよろず相談コーナー」に加え、一昨年から始まった国民の祝日「山の日」をより多く人に知ってもらうべく啓発のチラシの配布と10月27日開催予定の「森の音楽祭」のチラシも配布した。また、東海ユース及び支部友会では会員募集の活動を行い、新会員募集にも成果を上げることが出来た。

セミナー会場では、モデルエッセイストの華恵氏、山の日アンバサダーのなすび氏、アウトドアスタイル・クリエイターの四角友里氏などの講演に加え『高山植物の撮り方』、



なすび氏

村越 真氏

7階でのセミナーに加え、両日とも6コマづつの「最新登山用品の紹介・登山用品の上手な扱い方」などをテーマとしたミニセミナーが8階では開催された。



盛況であった会場





れていた。当日は家に居られて幸い私も説明を聴くことができた。曰く、武四郎はなぜ有名にならないんでしょうか、という愚問に女性との恋愛騒動がなかったのです、と言われた。吉村昭という歴史作家が来訪して取材したが前述の理由で小説化を断念したという。

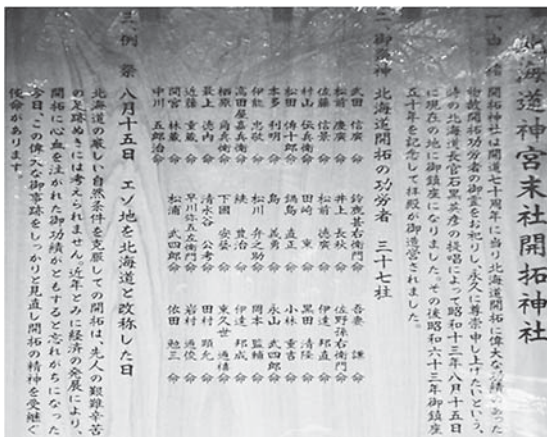
その後、生家の番をされていた松浦さんも死去されて松阪市に寄贈された。

さて、深田久弥の『日本百名山』に松浦武四郎の人名の出てくる山はいくつあるでしょうか。

答えは4座である。阿寒岳で詩碑を引用し、蝦夷紀行を紹介、十勝岳ではアイヌ人との交流を披露した。後志羊蹄山で『後志羊蹄山日誌』を引いて初登頂を紹介した。但し、この登頂は研究者によって否定されている。中村博男『松浦武四郎と江戸の百名山』（平凡社新書、2006年）を読むと松浦武四郎は日本全国の山を登っていることが紹介されており、名うての登山家だったことが分かる。



ある年の正月の初詣は開拓神社になった



神と祀られた。中段左端に松浦武四郎命と刻まれている

北海道の日本百名山9座中3座に紹介されたのは江戸時代、明治時代ともに時の政府から当時は蝦夷と呼ばれた北海道の開拓調査を命じられ、精通し、紀行を残したことが大きい。ただの物見遊山ではなく、当時の風物を記録したことが今では歴史的に評価されている。

ある年の正月休みを利用してフェリーで北海道に渡った。その際に北海道神宮の末社の開拓神社に詣でた。

今は神として祀られているからだった。

大雪山系の緑岳も今は括弧書きであるが、以前は松浦岳と呼ばれていた。もちろん武四郎に因んで命名されている。

では4座目はどこか。台高山脈の最高峰、大台ヶ原山である。中村博男氏の本によれば最初の大台ヶ原山登山はなんと明治18(1885)年のことで68歳だったという。悠々自適の人生で、ふるさとの三重県松阪市小野江(旧一志郡三雲村)に近いとはいえ、気力を振り絞って深山に挑む姿は素晴らしい。ならば大杉谷から向かったのか。残念ながら大杉谷の初遡行は明治45年の日本山岳会員大北聰彦、大西源一の記録まで待たねばならなかった。(大北らの初遡行は東海岳人列伝の最初に紹介)



尾鷲市の高峰山からの冬の大台ヶ原山（西山撮影）

結局、明治18年、明治19年、明治20年と連続して大台ヶ原に入山。武四郎は歌人であった。

“優婆塞（うばそく）も聖も未だ分けいらぬ深山の奥に我は来にけり”と詠んだ。(1885年)そして北海道にあったマンサクの木を見るところにもあったかと頬ずりし、涙を流したという。

奈良県側の伯母峰峠から地元の人を案内役

に同行して入山。三重県尾鷲市に下山している。目的は開拓だったという。

第1回目は大台ヶ原登山の記録として『乙酉掌記(いつゆうしょうき)』を著す。第2回目の大台ヶ原登山では『丙戌前記(へいじゅつぜんき)』、第3回目の大台ヶ原登山には『丁亥前記(ていがいぜんき)』を出版した。老境に至っても体力、気力、知的好奇心は衰えず、大変に筆まめであった。

そして明治21年2月4日に、親友の鷺津毅堂を訪ね、そこで脳溢血で倒れた。

鷺津家といえば、代々尾張一宮の郷土。二女は永井家に嫁ぎ、童謡歌手の小鳩くるみ(鷺津名都江)は毅堂の弟・鷺津蓉裳(わしづようしょう)の曾孫にあたる。外孫には作家の永井荷風がいる。武四郎の文人ぶりはこの華麗なる人脈をみるとなるほどと思う。

2月7日に危篤となり、明治天皇の耳に入り、

従五位に叙せられた。10日に71歳で永眠した。

JACの大先輩だった三ツ石清さんはよく冬の北海道に渡った。そもそも武四郎を教えてくれたのは三ツ石さんであった。偉人に毀誉褒貶はありがちだが北海道では武四郎の悪口を言うアイヌ人はいないとも言われた。

アイヌ人に野草の行者ニンニクが食用になることを教えたのも武四郎だった。だから大変感謝されたのだった。アイヌ人の女性から武四郎が妻子のいない独身の身と知って自分の子供をもらってくれと言われてもいる。それだけ信頼されていた証である。

私の故郷は武四郎の小野江町から直線距離で約15km上流の一志町にある。こんな近い所に偉人が生れていたなんて登山をしていなければ知らなかっただろう。

以上の映像はすべてインターネットから借用したことをお断りする。

## 東海支部俳壇

山蕩児 心酔

「夏青森に遊ぶ」

奥入瀬溪谷

奥入瀬に踊る夏日の瀬音かな

奥入瀬や瀬音相和すセミしぐれ

奥入瀬の爆水の風涼納む

十和田湖

十和田湖の驟雨落ち合ふ奥入瀬

湖の波切りて涼しや遊覧船

夏霧の十和田湖はるか八甲田

涼求め湖畔に立つ背の小望月

八甲田碑前の夏日燦燦と

夏空に丸山遺跡蒼然と

土器かわらけにしのぶ古代夏木立

ラッセラーはねと跳人狂ひて汗みずく

夏の湖水うみ面に映す君の笑み

5/1 御池岳

西山秀夫

山ガール並びスマホを押せとこそ

※押せとこそ…押して下さいの意

6/3 御在所岳の黒谷廻行

御在所の水を集めし滝を攀づ

水浴びて攀ぢる喜び夏の谷

山の池水底を這ふ井守かな

6/13 房小山

駒鳥よ歓迎の意をこめて鳴く

登山道キレットに風が吹き上げし

見る限り青嶺果てなし奥大井

登山道とぐるを巻きし蝮かな

6/17 大白木山

万緑の山の彼方に根尾の富士

ヤマボウシ花を見たさに登りけり

塩焼きの鮎を盛り立て夏料理(根尾・源屋)

虫干しや余り読まれぬ山の本

7/14 関市で災害ボランティアに参加

明け易し被災地へ我もボランティア

ボランティア終へて記念の団扇かな

## わが山登りと東海支部 その4

元・常務委員(支部報担当) 安藤忠夫

思うに、当時は支部関連の仕事に5割、他の会2割、本職2割、家庭1割、といったエネルギー配分で動いていた。そんなことでうまく社会が回ってくれるはずがない。鬱々とした気分を毎日過ごしていた。

支部活動に前のめりになっているうちに、かつて自分がやっていた山登り、ひとり物思いにふけりながら山野を歩くスタイルとはすっかり違ってしまっていることに気づくようになっていた。なんだか空しく思えてならない。

若い頃、20歳代にやっていた、独りぼっちな雪山登山が、時に触れて思い出される。それは、中央や南アルプスの山を目指すこともあったが、主戦場はやっぱり北アルプスの、穂高周辺、<sup>つばき</sup>燕、針ノ木、鹿島槍や五竜、白馬周辺が圧倒的に多かった。

あの頃は、会心の山登りを終え、町はずれの田圃の土手に腰を下ろして、数時間前まで雪まみれになって挑んでいた山嶺を見上げるのが常だった。夜行列車の時刻を気にしながら、テカテカと光り輝く雪の山を眺め、日なが過ごしたものだ。信濃四ッ谷で、神城で、大町、有明、穂高、などなどでのことである。

春先ともなれば、空高くでヒバリが囀っていた。リンゴの花が咲き、桜、モモ、アンズの花がいっせいに咲いていた。菜の花もレンゲの花も所狭しと咲き誇っていた。世に云う桃源郷とは、こんな所を云うのだろうと思った。

私もいつか、真っ白い雪の山を眺めながら、このような郷で暮らしてみたい。せめて老境を迎える頃になったら、そんな安曇野の地に移り住めないだろうか、と想ったものだった。

若いころの山旅がときどき蘇ってきて居たたまれない。そんな、支部の仕事に追いまわられていた時に、私はある作文を記した。すでにどこかで示したことがあって気恥ずかしくはあるが、次に、それをもう一度再掲してみる。

「隠居小屋といったたぐいのものには漠然とした願望がある。職場で定年を迎えたら、どこか田舎へ引っ越したい。そのとき住む山棲み小屋のことである。

宮仕えや子育てといった世間のしがらみか

ら一時も早く抜け出して、山の中の一軒家に移り住みたいと思う。ときどき座興に言うところの、家族からも独立して、というやつである。隠居?いや世捨て!である。

場所はどこでもいいが、まあ、信州のどこかということにして、かつての開墾地の一角としよう。南向きの日当りのいい傾斜地。クヌギやナラの雑木林に囲まれ、青い空がいっぱいに広がっているところ。欲を言えば小屋の傍らにチロチロと小川が流れていてほしい。かつての開墾地だから、元の開拓者たちから見捨てられてしまって、一帯で人影を見るようなことはめったにない。

丸太小屋になるかしらん。建坪10坪ばかりの広さ、2部屋もあれば十分だ。広い方が居間で、板縁になっていて土足用。これが主要な生活の場である。中央には大きなストーブがドッカーリと据えられ、そのまわりに木のひじ掛け椅子が置かれている。隅には小さな流し台があって、手を切るような冷たい水が四六時中、かすかな音をたてて流れ込んでいる。棚には数個の食器と、鍋と釜がひとつあてずつ置かれている。畳敷きの隣の小部屋が寝室で、掘りこたつが切られ、座卓がしつらえてある。そして、壁を背にした書架が一つ、<sup>あはれ</sup>たったそれだけ。

その粗末な荒家のこれもまた粗末な窓から、ほんの少し、白い山が眺められるならば、ほかに何も欲しくない。それですべて足りている。

私は、そこで残り少ない人生を山書三昧の時を過ごしながら果てたい。ひっそり閑とした小屋で、穴熊のように暮らしたい。ぼそぼそと独り言をつぶやき、日ねもす本のページを繰って老後を過ごしたいのである。ときには絵を画いて、手なぐさめの細工仕事も少しはしたい。

郵便物はこない。やれ会合だ、それ山行記録だ、やれ会報の編集だ、などといった無理難題を誰も押し付けないだろう。つまらない駄文を無理やり作らなくてもいいことも有りがたい。一日の総てが自分のもの。もう、知人も忘れた頃にしか訪ねてこないだろうから。

山書三昧とってみても、どのみち老人のことだ。多量の本は読めそうにないから2~300

冊を並べる棚があればいい。読書に疲れたらタ  
ップリと昼寝をし、近くの林の中の小径を歩き、  
山の麓に広がる田圃の畦道を歩こう。気が向い  
たら魚釣りにも出掛けよう。さらに、少し遠出  
をして山に登るのもいい。“晴耕雨読”などとい  
う勤勉実直そうな臭いのすることは、もう願  
い下げだ。

赤々と炎をたてて燃えあがるストーブ。チン  
チンと音をたてて湯気を上げるヤカン。それを、  
何を想うわけでもなく、いつまでもいつまでも  
じっと見つめて……。ね。もしかして、イノシ  
シやタヌキが、ジイサン生きているかいと、そ  
っと窓からのぞいてくれるかもしれない。

ああ、たまらない。そんなメルヘンの世界が、  
どこかに描かれていたような気がする。」

なんだか時代がかったおとぎ話のような話  
だが、1993年9月に記したものである。

いつの間にか3人の子の親になっていた。子  
供の1人を北アルプス山麓の町・松本に行かせ  
たいと思った。末娘が通う高校には、私より2  
つ年下の山仲間が教師をしていたので、親のエ  
ゴのようでいくら後ろめたくはあったが、松  
本に進学するよう勧めてほしいと依頼してお  
いた。当人には大きな部屋を借りてやろうなど  
と、それとなく勧めてみたりもした。首尾良く  
大学に進んだ年の春、こともあろうに、彼、徳  
島和男氏が、5月の穂高岳で雪崩れに巻き込ま  
れて亡くなってしまった。

子供が大学に進んでからは、監督を口実に安  
曇野に向かう機会がさらに多くなった。松本の  
娘のアパートを基地にして、せつせと山登りを  
した。機会あるごとに山に連れ出しもした。当  
人は卒業後、そのまま残って、結婚。今では三  
児の母親になっている。

子供が大学在学中のころ、忘れかけていた遠  
い日の想い、淡い願望が、徐々に蘇ってきた。  
そしていつしか、安曇野の地で土地を購入す  
ることを考えるまでになった。新聞の折り込み  
を見たり、住宅雑誌を覗いたりしながら、機会を  
とらえて物色するようにしていた。若い頃に思  
い描いていた、穂高町、明科町、松川村、池田  
町、大町市の辺りが候補地である。

うまい具合に北アルプスの山々が一望でき  
る、高瀬川を挟んだ池田町の高台で、思い通り  
の土地を探し出すことができた。依頼してお  
いた不動産会社の担当者が、信濃支部の支部員だ

ったことも幸いしたようだ。

2005年、5月になって地鎮祭をした。夏前に  
基礎のコンクリートを打った。内装の打合せに、  
長野市内にある建築会社の事務所へ2度ほど出  
向いた。建築まっただ中の秋季にはよく雨が降  
った。水道工事や整地などの土木工事を、下水  
道工事をたのんだ地元の設備会社に依頼した。  
大工は鬼無里の人。

私は時折、山登りを兼ねて、進捗状況の点検  
に行った。現場で今後の細かな打合せをしたり、  
大工仕事を手伝ったり、野菜作りの予備知識を  
得に農家を訪ねたり、と結構忙しかった。こう  
して新築なった隠居小屋の引き渡しを、12月中  
旬にうけて、2006(平成18)年の正月を、雪の隠  
居小屋で迎えることができた。

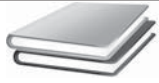
小屋の窓からは、正面に爺ヶ岳を、左手に蓮  
華岳と針ノ木、右手には鹿島槍、五竜、白馬と  
続く山並みが見られる。12月の鹿島槍、蝶ヶ岳。  
2月白馬。3月の針ノ木、五竜、唐松、燕。そ  
して5月には白馬、鹿島槍などなどと、繰り返  
し登り、親しんだ山の連なりが望める。勿論、  
剣、薬師、槍、穂高、などの雪の山々も、その  
背後にある。思い出いっぱい、人生の総てをか  
けた山がそこにある。

そんな若き日の、山ばかり登っていた日々を  
思いだしながら、時の動きが止まったように、  
ゆったりと過ごす毎日となった。

今では、庭に植えた、アンズやリンゴ、サク  
ランボなどの果樹が実をつけるまでになって  
いる。ハナモモの艶やかな花やオオヤマレンゲ  
の清楚な花も咲く。そして、孫のお守りの基地  
として、チビたちと戯れながら過ごしている。

去年(2017年)、暇乞いのつもりで、夏に奥穂  
高、秋には八ッの権現岳に登った。が、往路は  
ともかく下山は散々だった。私の山も、ゴール  
間近なことをいやが上にも悟った。

さらに10月下旬に、W・ウエストーンゆかりの  
保福寺峠周辺を歩いてきた。こちらは、誰一人  
遭うことなく、森の中を存分に彷徨うことが  
できた。やっぱり私は、一日歩いても誰にも会  
わない山が好きだ。来し方行く末をあれやこれや  
思いながら、山中をほっつき歩いていると、人  
生は、ほんのつかの間のことなのだ、しみじ  
み想えるのだった。(完)



## 東海支部の蔵書からの一冊⑱

図書委員会委員 園田さえ子

### 『日本登山史』 山崎安治著

東海支部に所属するW氏から「なるほどと考えさせられるものだ」と読むように薦められた本である。支部友入会の頃からよく耳にした「円空上人」「役の行者」が日本の登山とどのような関係があるのか、《江戸時代の諸藩の山林巡視、明治時代の国防による「地図の作成・三角点の設置」》では、《我々はなぜ登頂したらタッチするのか》説得力のある文面で読みやすい。本題の登山らしき現代の登山に向かって話は進む。

明治という外国に開かれた時代になって、志賀重昂の『日本風景論』がアドベンチャーの精神を称え、登山の案内書・登山の技術の解説書になったこと(志賀重昂は愛知県岡崎の生まれの地理学者)。

さらに、この時代(M38年)にウェストンの勧めにより小島烏水らが「日本山岳会」を設立。主旨書を添えて雑誌に発表。山岳会規則の第二条には「本会は山岳および山岳に隷属せる森林、湖沼、溪流、高原、瀑布、動植物、岩石、天象等に関する科学、文学、芸術その他一切の研究をもって目的となしかつ全国に登山の気風を奨励し一般登山者に便宜を与えんことを期す」とある。

「日本山岳会」設立以降どのような登山史が繰り広げられたのか、様々な登山のあり方をそれらに関わった登山家の思いを著者の資料を借りて網羅してゆきたい。

「日本山岳会」設立後、日本アルプス探検登山の時代に入り黄金時代が到来、それらの登山内容が『山岳』に発表されるのである。

山岳5周年記念号には《・・・本会の目的、事業に賛同された諸氏の同情ある共同働作によって、何の権威にすぎらず、この方面において好材料に富んだ冊子を刊行できたこと、・・・山という無窮の楽園を日本にもたらしたウェストン師を、会の最初の名誉会員に・・・》と巻頭言に掲げる。

大正2年、1/50000の地図が発売されると登山が広まり、各種の登山団体が生まれ、「日本山岳会」は講師を派遣するようになる。登



山案内の組合も発足し登山者用の山小屋も設置された。

この頃日本にスキー術が移入され積雪期登山を新しい対象として進んでいく。そして横有恒のアイガー東山稜登攀から「アルピニズム」が勃興するのである。大正の中頃から学生を中心とする登山者たちにより波紋を広げていく「アルピニズム」。雪線をもつ岩と雪と氷に閉ざされた世界における登山行為。

そのころの登山界において船田三郎氏は「日本の山々を歩む人々の間に、老年と青年の間に登山術の概念について・・・ある者は岩登りをする人、雪の中を歩む人を銜気(ゲンキ)ある冒険家となりと、あたかも軽蔑の意を漏らし、ただ自分たちのみが自然の静かなる幸福者たるを享受するものなりと思惟せる者や、他の者はまた従来経験ある登山家とはただ限られたる季節のみの不自由なる古き登山術のみを知れるもの、・・・ただ限られたる季節のみの山岳の地形のみを知れるものにして、その新しき形式を知れる自分たちのみが自由に気ままにいずれの季節、いずれの方面よりも深く山々を登りまた知ることを得るものなりと思う人々である」と、早大山岳部報で述べている。新旧交替を告げる新しい波の到来である。登山用具はピッケル、シュタイクアイゼン、ザイル、鋏靴が使用され

る。

大正12年1月、岩登りとスキー登山というアルプス的登山がようやく地に着き始めた登山界に、榎有恒一行の立山弥陀ヶ原の遭難が起きた。冬山への恐怖感には非常なものがあつたが、榎は日本の登山界の将来を次のように述べる。「夏の山から冬の山に向かう傾向は当然な行き方である。雪と氷との山を味わうためにはどうしても積雪期の山にゆかねばならない。夏の山でもこれから開拓されてゆくのは岩登りの方面ではあるまいか。もし私たちにして先人の跡をのみ辿ることで満足ができ、自分の新しい道を求めないものなら問題はない。しかし、自分達の前にある経験や知識に立って、更に少しでも上に延びたいという望みがあるならば、いつも新しい道の開拓に私たちの試みは向かうはずである。・・・しかし、山岳と天候とを相手にしていることなので、何らかの意味での危険の存在することはどうしても避けられない。もし登山は危険であるからといってしまえばそれまでである。君子は危うきに近寄らざるも一つの生き方であろう。だが私は危険に対してはあるかぎりの注意を払ってそのうえで勇気を出すべきであると思う。退嬰的であるよりも進取的であることがより健康的であり、より本質的ではなかろうか」と。・・・日本の登山界は榎の予言したように発展の道を進む。

大正13年6月「RCC」発足。藤木九三はRCCの功績についてこう述べている。「RCCが当時一大正から昭和初期にかけて一の岳界にもたらした最も大きな影響は、実業団体に与えた刺激だった。というのは、そのころの「JAC」は新しい形式の登山については何らの指導力もなく、もっぱら学生陣営の間に限って活発な動きをみせ、関東では早稲田、慶応を中心とし、関西では京大を取り巻く2、3の学校だけが目立っていたに過ぎなかった。そうした時代に実業団体の横断的な糾合をはかり、学生陣営に伍してスポーツアルピニズムの昂揚に、相応の貢献をもたらしたことだった」。さらに藤木は岩登りを登山の神髄として紹介し、登山の新生面を開拓したのは榎有恒だと記している。

大正14年カナディアンロッキーの未踏峰アルバータ(3619m)が、日本人最初の海外遠征

として「日本山岳会」登山隊で行われた。日本人のアルプス、北米などでの活躍が見られる。

大正末期から昭和の初期にかけて、日本アルプスにおける登山は春の登頂が済んだ後、厳冬期の登頂が第一の目標におかれ、夏期における岩登りも綾から壁の登攀に移った。遭難事故も第一線の登山者を緊張させた。昭和3年3月、前穂高北尾根に向かった慶大隊の大島亮吉が墜死を遂げている。

昭和4年、学生登山者は日本山岳界全般の水準意識を高めるために、関西学生山岳連盟、関東学生山岳連盟を結成。学生登山者の団結は積雪期登山や岩登りという新しい登山の動向について手をこまねいていた創立後20年を経た「日本山岳会」に対する一つの反応とも見られた。

ヒマラヤへの道。昭和5年の夏、三田幸夫氏は「・・・我々の舞台も日本を離れたものになりたい・・・7、8km峰がヒマラヤには待っております。すでに登山界は3kmの時代ではなくなってきました。・・・ヒマラヤの高峰には雪と岩と氷のコンパインした技術が絶対に必要です。日本でも冬や春山で雪と岩の技術は練習できるのでしょうが氷はありません。しかし、冬春の山の経験は非常に役立つことと思います。その意味において日本の学生が剣や穂高を持つことは実に恵まれています。・・・ヒマラヤではベース・キャンプ以上はほとんど雪中のキャンプです。これも1万フィートをはるかに超えたもののみです。日本の山でも十分な準備をもってテントを上へ進めたならいぶん面白いことができるでしょう。・・・」このような便りが発表されてヒマラヤへの道が進むことになる。そして昭和27年「日本山岳会」は榎有恒を委員長にヒマラヤ委員会を組織し準備に入る。28年の第1次マナスル登山の隊長は三田幸夫氏である。

日本登山史をどうにか読み終えて思った事は「登山を目指す方々のたゆみなき向上心」に多大なる驚きを感じたことです。そこで、「素晴らしい」の賞賛とは別に、明治に創られた日本山岳会の規則第二条の内容がほのぼのとしていて「ナルホド」と腑に落ちました。

昭和44年発刊 544頁 発行：白水社

# 支部友コーナー

## ◆支部友委員会山行計画

(平成30年12月～平成31年2月分)

12月1日(土) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：霊仙山(1084m)  
リーダー：磯部 隆 締切：11月10日

12月2日(日) ☆

山域：鈴鹿 山名：鈴鹿の上高地(995m)  
リーダー：金谷正起 締切：11月12日

12月8日(土) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：竜ヶ岳(1,099m)  
リーダー：今津英一郎 締切：11月17日

1月13日(日) ☆

山域：焼津 山名：満観峰(470m)  
リーダー：今津英一郎 雨天：中止  
締切：12月24日

1月20日(日) ☆

山域：宮路山脈 山名：五井山・宮地山  
リーダー：尾上 昇 締切：12月25日

1月26日(土) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：御在所岳(1,212m)  
リーダー：高松信治 締切：1月6日

1月27日(日)～28日(月) ☆

山域：北アルプス  
山名：厳冬の上高地(1,500m)  
リーダー：金谷正起 締切：1月7日

2月2日(土) ☆

山域：渥美半島  
山名：田原アルプス・衣笠山  
リーダー：水野猛志 締切：1月13日

2月3日(日) ☆☆

山域：豊橋 山名：湖西連峰(324m)  
リーダー：磯部 隆 締切：1月14日

2月10日(日) ☆

山域：鈴鹿 山名：入道ヶ岳(906m)  
リーダー：今津信一郎 締切：1月21日

2月16日(土) ☆☆

山域：三河高原 山名：猿投山(629m)  
リーダー：金谷正起 締切：1月27日

2月23日(土) ☆

山域：鈴鹿南部  
山名：観音山(224m) 筆捨山(285m)  
羽黒山(290m)  
リーダー：榊 将美 締切：2月3日

**山行対象者** 支部友会員及び支部会員

**申込み方法** ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

## 次回支部友ミーティング

### 開催内容のお知らせ

第33回「忘年会・新入会員歓迎会」

日時：12月11日(火)

会場：レストランリビエール

会費：3000円

**支部友会員数**

平成30年8月末現在／114名

### リーダー連絡先

尾上 昇 FAX：052-832-3878

メール：onoe@onoe.co.jp

金谷正起 携帯：090-9931-3600

メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

榊 将美 携帯：090-7237-4410

メール：m.sakaki@minds-consulting.jp

村瀬恭平 携帯：090-4186-9876

メール：hoshizakari@ezweb.ne.jp

田中 進 携帯：090-9191-8666

メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一郎 携帯 090-2616-7549

メール：imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯：090-9180-7245

メール：takass@yk.commufa.jp

高松信治 携帯：090-3156-5268

メール takama2nobu3@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯：090-7859-4031

メール：yo-kom@nifty.com

水野猛志 携帯：090-5866-3781

メール：r34668@bma.biglobe.ne.jp

## 同好会紹介コーナー

### 古道塩の道同好会 古道塩の道踏破！！

山中光子

2012年同好会を結成してから、はや6年。結成するまでの下準備には半年。スタートでは、炎天下に吉良で海水をまき、昔ながらの製法で塩を自分達で作った。それから遅々とした歩みだが、直線距離で165キロ余、ところによっては古道を探しながら何度も迷いながらの探索。最終地点迄、計り知れない塩を運ぶ遠い道のりを歩き通す事ができた。

吉良(西尾市) 矢作川 岡崎 足助 稲武 長野県に山越えて根羽村 平谷村 阿智村 飯田市 高森町 松川町 飯島町 駒ヶ根市 宮田村 伊那市 南箕輪村 箕輪町 最終地点の辰野町 小野宿。

糸魚川から松本迄の塩の道も歩き、南塩 北塩の区別は理解していた。糸魚川からは北塩、足助のコースは南塩、遠州からの塩も平谷あたりで合流して南塩。

塩の道とは、一般的には「塩の道の尻」で塩尻が最終地点と思われる。下見の時に善知鳥(うとう)峠を越え、塩尻に入った途端「三州街道」の標識から「中山道」へと変わり忽然と三州街道が消えてしまい、不思議だった。

北塩は松本で幕府により管理され、松本から南へは持ち出す事はできなかった。この事は充分理解していたが、私達下見の勉強不足で、江戸時代、塩尻は松本藩と言う事に気が付かなかった。当たり前ながら、南塩は塩尻に入る事は一切なかった。



小野宿

最終地点である辰野町小野宿は、明治3年に問屋制度が廃止される迄200年間、問屋役名主役を務めて来た。1859年焼失するも再現され今はすでに160年経過している。現在建物は町に寄付をされ、町の教育委員会と小野宿保存会の方々が管理され、一般公開日も設けられ宿の案内を含め見学可能。

最終地点である辰野町小野宿は、明治3年に問屋制度が廃止される迄200年間、問屋役名主役を務



南塩終点の地 石碑と看板

小野宿の隣の駐車場に「南塩終点の地」の石碑と看板が建っている。ここで区切られてしまうのは、心もとなく色々手を尽くし資料を探したが、出てきたのは静岡県掛川市主催の「第1回塩の道会議報告書」(平成7年10月)のみで、小野宿を最終地点にとの話し合い会議で全くの拍子抜けの感じだった。

諸説のある塩の道、足助を通った塩は飯田でほとんど消費されたとの説もあるが、宮田村村誌には、足助の塩が通過したと記載され、小野宿の近くには足助姓の一族がいるとの話を聞くと、最終地点は小野宿で終わるかと思う。

下見から始まり、炎天下のアスファルト歩き、雨 雷 雪だけでは無く吹雪、水害で崩壊してしまった川沿いの古道、殆どのコースが153号線を基本としてクルクル回り道。下見時から快く車を出してくれた会員の方々含め会員皆様のご協力で踏破を達成する事ができた。今後は踏破した道のまとめの集大成。一番大変な作業が始まる。

会員の方々に今後、古道塩の道として会をどうするかと問題提起をしたら、今まで歩いた道以外の各方面の塩の道を歩きたいと希望があり、今までと違い各自がテーマを持ち、色々調査し皆で歩こうと言う事になった。本題以外にも塩の道を歩きながら見つけた、役行者像探索(既に100体程調査済)、木地師学会との交流もあり、合わせて継続していきたいと思っている。

### スケッチクラブ

村中征也

津島・街歩きスケッチ

9月13日(木)、津島市で街歩きスケッチを楽



しました。初めての土地でしたが、地元の福井さんの案内で、楽しい1日を過ごしました。

津島市は、織物業で栄えた海部地方の拠点都市ながら、メインの天王通も「シャッター街」で寂しい限りです。しかし多様な看板がかつての賑わいを留め、楽しませてくれました。

津島は、古来有力な貿易港として富をもたらし、織田信長の天下取りの大きな要素と言われています。津島神社は、古い歴史を持ち、織田家始め手厚い庇護を受けて発展、威容を今に伝えています。

有名な天王祭は、津島神社の祭礼として600年の伝統を持ち、7月に行われる5艘の「まきわら船」は、華麗な提灯の灯が天王川に映え見事です。

天王川は、まきわら船の航路を囲むように緑の公園になっており、此処で腰を下ろしてスケッチして来ました。支部報締切の関係で未完成ですが、雰囲気をご覧になって下さい。

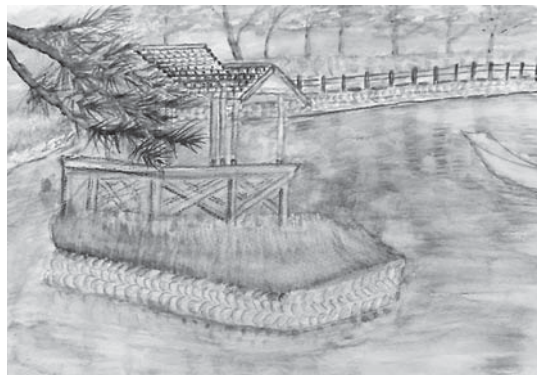
11月の白鳥庭園でのスケッチの後、集大成は2月15日(金)からの作品展(市政資料館)です。作画に励んで参りますが、「試し参加」も出来ますので、気軽に声を掛けて下さい。

代 表…石田好子

事務局…村中征也・武内喜代子



『天王川公園』 福井画



『天王川公園』 武内画

## 委員会報告

### 【自然保護委員会】

自然保護委員会では、2018年度より環境省事業のモニタリング1000里地調査の「中・大型哺乳類」の調査を始めました。本事業の事務局は日本自然保護協会です。

場所は、日本山岳会東海支部の所有地である「ヤマザクラフィールド」で、日本自然保護協会より赤外線カメラ3台とフィルムが貸与されます。

調査期間は、2019年の5月から10月までの6か月間を5年間です。

なぜ、5月から10月までかというと、全国規模の調査なので、全国比較が可能な落葉広葉樹林の展葉後～落葉前の時期という事になります。

調査方法は、赤外線センサー付き自動撮影カメラ3台を森林内に設地し、約1か月ごとにフィルムと電池を交換。写真に写った哺乳類を同定し、種類や頻度を記録します。事務局担当(井

藤)が決められた時期に日本自然保護協会へその記録等を送ります。

全国規模の調査なので事前研修が義務付けられています

11月の2日3日。海上の森センターでその研修が開催されます。事前研修を受講することによって赤外線カメラ等の貸与が可能となります。また、受講後の3年以内に調査を開始すればよい事になっていますので、実際には、2019年5月より調査は開始します。

地球環境が大きく変動しつつあるこの時期に調査の機会に恵まれました。

この調査に興味を持たれた方は、[Nqg20063@nifty.com](mailto:Nqg20063@nifty.com) の井藤までご連絡ください。

\*動物調査をして、ヤマザクラフィールドを楽しみましょう！

自然保護委員会委員長 井藤恵美子

## 【山行委員会】

平成30年6月～8月の支部山行実施状況

	日程	山域	山名等	参加人数	リーダー
6月	1～3日	大菩薩連峰ほか	大菩薩嶺ほか	中止	岡本
	2日	上田市南	独鈷山	7人	石井
	2～3日	阿寺山系	小秀山	10人	稲葉
	9日	熊野古道	三木峠～太郎坂	9人	林
	10日	越美山地	三周ヶ岳	中止	吉田
	23～24日	富士山	富士山・須走ほか	中止	伊藤
7月	13日	両白山地	三ノ峰	8人	鈴木
	14～15日	中央アルプス北部	将基頭山ほか	中止	伊藤
	16～17日	北ア常念岳前衛ほか	有明山ほか	4人	石井
	28日	高島トレイル	赤坂山	中止	市川
	28日	三国山脈	谷川岳西黒尾根	中止	岡本
8月	17～19日	両白山地	白山五峰縦走	3人	天野
	29日	布引山地南端	大洞山	3人	石井

※支部山行ホームページで参加者を募集していますので、ご覧ください。

山行委員会委員長 鈴木慎吾

### 【東海Youth】

東海Youthは6月24日(土)・25日(日)に開催された第6回夏山フェスタで新規会員の勧誘をおこなった。山ガール講座の卒業生が中心のYouthにとって、オープンな場での勧誘は初の試みだ。メンバーはこの日のために注文した揃いのTシャツを身に付け、来場者にチラシを配った。当日ブースで話を聞いてくれた方は22名。

後日開催した支部ルームでの説明会には3名が参加。その後、8月の鳩吹山体験山行(暑かった!)を経て、10月から1名の入会が決まった。組織の活性化のためにも勧誘作業は今後もおこなっていききたい。

東海Youth代表 服田

### 【ボランティア委員会】

今年度、ボランティア委員会秋の公式行事は、日程的に10月11月に集中して行われる。

主な行事としては、10月6日(土)に支部視覚障がい者対象の『ひまわり登山』。同じく10月6日(土)・7日(日)に『視覚障がい者全国交流登山大会』への参加する。

10月20日(土)、11月10日(土)に幼稚園児対象の『親と子の登山教室』。10月28日(日)に知的障がい者対象の『山岳会といっしょに登山2018』。11月1日(土)・2日(日)に補導委託登山『たんぼぼ登山』。そして11月3日(日)には公募に

よる視覚障がい者対象の『秋のブラインド登山』。以上の6行事である。

外部団体との交渉をしながら、開催に向け委員会では準備を進めています。



氷ノ山頂上にて

これら秋の行事にさきがけ、委員会メンバーと、支援者、関係外部団体との親睦を図るための恒例夏山親睦山行を、8月18日(土)・19日(日)に11名が参加して、氷ノ山と扇ノ山で行った。天気にも恵まれ、ぶなの自然林が残る中国地方の名山を楽しんできた。

秋の、委員会行事に、支部員の皆さんも、是非ご参加ください。

# 会 務 報 告

## 【2018年6月常務委員会】

日時：6月27日(水)19時00分～20時25分

1. 支部長挨拶(高橋)：先日、本部の総会に出席してきた。2点報告がある。1点目は120周年を迎えるにあたり、原点回帰としてヒマラヤ登山の話が出ている。支部も60周年を控えているので、企画を今後考えたい。2点目として広島支部の2件の事故について。東海支部は登山届の提出も最も多いが今後も慢心することなく続けていくようお願いしたい。また、今年もゴザフェスが行われる。学生だけでなく支部を挙げてのイベントにしたい。

### 2. 委員会報告

①会計(市川)：登山学校の受講料は6月の支部報に同送予定。

②岳連(鎌倉)：6/19に理事会があり、13次インドヒマラヤ登山の審議があり満場一致で承認された。8/3～8/7にインターハイが鈴鹿で実施される。約500名が参加。混雑が予想される。

③支部友委員会(尾上)：夏山8件は全て満席となっている。朝明ミーティングについて配布資料のとおり概要を定めた。今後内容を詰めていく。

④山行委員会(鈴木)：今後の山行計画について報告。配布資料参照。

⑤猿投の森づくり委員会(小川)：6/9に総会開催。役員の変動を行った。

⑥東海ユース(服田)：先日夏山フェスタにて新規会員募集。今後説明会や体験山行を行う。

⑦登山学校運営委員会(榊)：順調に進んでいる。2期目を迎えるにあたり、配布の登山学校山行要領および登山学校運営規約に基づき運営していきたい。当要領および規約は常務委員会にて承認された。7/7に1期目の修了証書授与式と2期目の開校式を実施予定。

⑧支部報編纂委員会(星)：No. 154について印刷中。6/29に発送予定。東海支部ガイド2018も同梱予定。

⑨青年部(中子)：3ヶ月に1度は副委員長の出席ということになった。6/15カナダノーザンカリブー山群スキー縦走の報告会があり、青年部からも参加。

⑩学連(丹羽)：今月の例会では夏山の計画とゴザフェスについて話し合った。ゴザフェス委員長一ノ瀬より報告：9/22～23で実施予定。

⑪自然保護委員会(井藤)：配布資料に基づき活動について報告。

⑫図書委員会(石田)：現在、蔵書の整理とラベルの貼り直し中。貸出日時を設定しているが貸出がない状態。平日昼間に変更して試してみたい。HPにリストを掲載することを検討。

⑬海外登山(高橋)：6/15にカナダノーザンカリブーの報告会を行った。

⑭インドヒマラヤ(星)：8/2出発、8/28帰国予定に決まった。7/1に9回目の会議実施予定。

⑮ボランティア委員会(前田)：タンポポ登山(補導委託登山)について無事終了。明日、裁判所と打ち合わせを行い、今回の反省と次回に向けての話し合いを行う。

⑯遭難対策委員会(毛利)：登山届の提出状況等は配布資料のとおり。

⑰技術向上委員会(片岡)：6/9～10国立登山研究所にて行われた指導者研修に3名参加。6/29に伝達講習会を行う。以前案内した11月のサテライト講習については8/中～下にHPに掲載され、各自申し込みとなる。新たな試みとして、10年後、20年後の女性指導者を育成するため女性Proj.を計画中。

⑱写真展実行委員会(山内)：次回写真展へ向け、展示方法など検討していく。

⑲森の音楽祭実行委員会(毛利)：10/27に実施。内容決定した。第1部は東海高校の演奏と和太鼓・篠笛。午後、第70回全国植樹祭応援イベントとして植樹。植樹については場所や木、本数など植生への影響などを検討し県とも協議して決定。第2部は自然観察会と登山。

⑳総務委員会(毛利)：6/23～24夏山フェスタは無事終了。2日間で8千弱の来場者。去年より400人ほど増加。

出席：高橋、佐野、片岡、尾上、市川、鈴木、加藤、前田、箕浦、星、小川、井上、井藤、毛利、石田、榊、山内、服田、鎌倉、丹羽、中子

## 【2018年7月常務委員会】

日時：7月25日(水)19時00分～20時05分

1. 支部長挨拶(高橋)：先日登山学校の入校式が行われた。講師もスキルアップして臨んで欲しい。来月いよいよインドヒマラヤが出発するので期待している。またゴザフェスも日程が決まり準備が進んでいる。応援して欲しい。

### 2. 委員会報告

①会計(市川)：補導委託登山について補助金が

交付された。(正しくは立替払いの精算)

②支部友委員会(金谷氏欠席につき尾上氏):配布された資料に基づき6月~7月の山行及び8月~9月の支部友ミーティングについて報告。夏山フェスタで入会に興味を示し名簿に記名した方へ向けオリエンテーションを行った。10名の参加があり、全員入会予定。9月の支部友ミーティングへ向け準備を進めている。

③山行委員会(鈴木氏欠席):報告については配布資料参照。

④亀の会(加藤):6月の山行は雨、7月の山行は酷暑につき中止となった。

⑤猿投の森づくり委員会(小川):今年度の緑化推進機構からの助成金の交付が決定し承認通知書が届いた。8/14、9/22に森の音楽祭へ向け作業予定。

⑥東海ユース(服田氏欠席につき高橋氏):活動報告については配布資料のとおり。今後青年部との融合を図っていきたい。

⑦支部報編纂委員会(星):No. 155について配布資料のとおり原稿を予定している8月末が原稿〆切。原稿の提出をお願いしたい。

⑧青年部(鎌倉):活動については配布資料のとおり。夏ということで沢が増えている。

⑨学連(丹羽):ゴザフェスについて配布資料のとおり計画している。今後、企画の内容を詰める。

⑩登山学校運営委員会(榊):中日登山教室については6月~7月の講座が終了。ビルの建替から今後しばらく電通ビルで行う。登山学校の進捗については7月の卒業山行はほぼ終了した。8月に初級クラスを対象に第1回の机上講習実施。

⑪自然保護委員会(井藤):モニタリング1000調査について県有林は許可が下りないため、山桜フィールドで実施予定。

⑫海外登山(高橋):6/15にカナダノーザンカリブーの報告会を行った。

⑬インドヒマラヤ(星):メンバーとの打ち合わせも11回を重ね、この土日は飛騨高山御獄トレーニングセンターでのトレーニングも行い、メンバーの身体能力が高いことが確認できた。中日新聞の後援も決まり、予定通り8/2~4に出発する。

⑭ボランティア委員会(前田):今後10月~11月にほとんどの行事が予定されており、準備中。

⑮森の音楽祭実行委員会(毛利):7/27に実行委員会を行ない、DMの発送・当日の内容・事

前作業の日程を決める。9/22に予定している作業については是非各委員会の参加を希望。

⑯技術向上委員会(片岡):6/9~10国立登山研究所で行われた指導者研修の伝達講習会を6/29に行った。

⑰総務委員会(毛利):8月は常務委員会を今年も休会とする。

出席:高橋、佐野、片岡、尾上、市川、加藤、前田、箕浦、星、小川、井上、井藤、毛利、石田、榊、山内、鎌倉、丹羽

総務委員会 毛利邦男 記

## ル ー ム 日 誌

- ―― 6月 ―――
- 1(金) 古道塩の道
- 4(月) 支部友委員会
- 5(火) 県岳連
- 6(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 7(木) 写真展委員会/自然保護委員会
- 9(土) 猿投の森づくりの会総会
- 11(月) 登山学校運営委員会
- 12(火) 支部友ミーティング
- 18(月) 図書委員会・読図会
- 19(火) ボランティア委員会
- 20(水) 山行委員会/総務委員会/正副支部長会議
- 21(木) 東海学生連盟
- 26(火) 猿投の森運営委員会
- 27(水) 常務委員会
- 28(木) 技術向上委員会
- 29(金) 支部報発送
- 30(土) 東海ユース(企画会議)
- ―― 7月 ―――
- 2(月) 支部友委員会
- 3(火) 県岳連
- 4(水) 青年部 TNCC(同好会)
- 5(木) 写真展委員会
- 6(金) 古道塩の道
- 7(土) 登山学校入学式
- 8(日) 東海ユース
- 9(月) 登山学校運営委員会
- 12(木) 自然保護委員会
- 16(月) 図書委員会・読図会
- 17(火) ボランティア委員会
- 18(水) 山行委員会/総務委員会/正副支部長会議
- 19(木) 東海学生連盟
- 20(金) 支部友委員会(オリエンテーション)
- 24(火) 猿投の森運営委員会

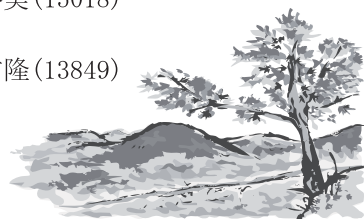
25(水) 常務委員会  
26(木) 技術向上委員会  
27(金) 亀の会/森の音楽祭実行委員会

退会：山元貞彦(14250) 鈴木芳江(15529)  
松崎祥平(15985) 岩出好晃(12494)  
二俣勝美(15018)

### 会員異動

入会：杉浦義晴(16371) 内藤晴義(16369)  
油井孝夫(16364) 渡部絹代(16377)  
松岡照代(16390) 川崎禎明(16393)  
川崎明子(16394)

物故：野島信隆(13849)



## INFORMATION

### 【総務委員会からのお知らせ】

#### △ 東海支部新年会のお知らせ△

日 時：平成31年1月19日(土)  
午後5時～

場 所：今池ガスビル 8F ガス燈  
名古屋市千種区今池1-8-8  
電話：052-732-2944

地下鉄東山線今池下車 10番出口から1分  
会 費 4500円程度(懇親会参加者のみ)

◎本年は花谷 泰広氏の講演を予定しています。

◎詳細は同封しました案内状をご覧ください。  
また、同封したハガキで出欠を12月15日までに連絡ください。

新年会には、支部友、青年部、東海学生山岳連盟、東海ユース、登山学校の方々も参加できます。

#### △ 日本山岳会年次晩餐会のお知らせ△

本年度の年次晩餐会は12月1日(土)に東京新宿の京王プラザホテルにおいて行われます。会員の方には本部事務局から案内状が来ますので各自お申し込みください。

総務委員会 毛利邦男

### 【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第10回森の音楽祭2018が10月27日(土)10:00～15:30 猿投の森特設会場(愛知県有林やまじの森)にて開催されます。参加費500円。

参加ご希望の方は名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅までお越しください。駅から森の入口まではシャトルバスが運行します(朝7時30分～8時30分) 午後は記念植樹、森の観察会と猿投山山頂を目指したハイキングが予定されています。第2部の参加申込受付は終了していますが、第1部の申し込みは受付いたします。

申込方法：ハガキ・ファックス(東海支部森の音楽祭実行委員会 宛)又はe-mail(メールアドレス：sanagenomori@gmail.com)

森の音楽祭際実行委員会 毛利邦男

### 【写真展実行委員会からのお知らせ】

下記のような写真撮影山行を企画しています。是非、参加をご検討ください。

- ① 11月4日(日)～5日(月) 1泊2日  
自然湖&開田高原 御嶽休暇村泊  
マイカー利用 世話人 武内喜代子
- ② 12月29日(土)～30日(日) 1泊2日  
厳冬の上高地 大正池ホテル泊  
マイカー利用 世話人 箕浦靖夫  
雪の大正池、上高地をホテルに泊まって楽しむことができます。
- ③ 2019年1月15日(火)～16日(水) 1泊2日  
野沢の火祭り 野沢温泉泊  
マイカー利用 世話人 蟹井れい子
- ④ 2019年2月4日(月)～5日(火) 1泊2日  
美ヶ原高原 美ヶ原高原ホテル泊  
松本駅集合 世話人 坂本孝

参加ご希望の方は、委員長までメール

yamauchi@orihime.ne.jp にお知らせください。 写真展実行委員会 山内 薫

### 編集後記

今年の夏は本当に暑かった。台風や地震等自然の驚異も増し、地球環境にも加速度的にその影響を与えているように思う。海外での登山で特に自然環境の変化を感じた。

今年の秋は、自然に親しむ秋、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋など季節感を五感で感じたいと願う。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!



世界の山旅を手がけて48年

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”  
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211  
〒450-0002  
名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千禧ビル3階)

アルパインツアー 検索  
www.alpine-tour.com



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。  
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

【東京本社】〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10-5 ハツ橋ビル301  
TEL:03-3341-0030 FAX:03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp

【大阪支店】〒530-0012 大阪市北区芝田2-8-7 八木ビル4階  
TEL:06-6147-8031 FAX:06-6147-8032

ホームページ http://www.atlastrek.co.jp/

SINCE 1975

mont-bell

ウェア・ギアに  
遊び心もそろえて  
お待ちしております



アウトドア用品は、  
機能的なアイテムが豊富に  
そろうモンベルストアへ。

NEW 浜松店 ☎053-401-7370

静岡県浜松市東区西町985-1 浜松プラザウエスト内

NEW ららぽーと名古屋みなとアクルス店 ☎052-659-2708

愛知県名古屋港区港明2-3-2 ららぽーと名古屋みなとアクルス1階

NEW モンベルルーム御在所店 ☎059-392-2269

三重県三重郡菟野町大字菟野8625 (御在所ロープウェイ内)

名古屋店 愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階

長久手店 愛知県長久手市片平1丁目901

各務原店 岐阜県各務原市那加萱場町3-8 イオンモール各務原 2階

新静岡店 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階

ららぽーと磐田店 静岡県磐田市高見丘1200 ららぽーと磐田 1階

長島店 三重県桑名市長島町浦安368

三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階

鈴鹿店 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階

名古屋店・長久手店・長島店では、アウトレット商品も取り扱っています。

【お問い合わせ】  
モンベル・カスタマー・サービス ☎0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号

(地下鉄・久屋大通駅から徒歩から2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130

URL: http://www.nygs-office.com/

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市中区東区矢田東1番22号  
TEL (052) 719-0677 FAX (052) 719-0678  
E-mail: info@asai-rbs.co.jp

\*\*\*\*\* OMC \*\*\*\*\*

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014  
名古屋市中区富士見町8番8号

\*\*\*\*\*



(株)ワークシステムサービス

一般社団法人 日本自動車運行管理協会  
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市中区東区猪子石3丁目113番地  
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031  
http://www.work-system.co.jp/